

YOKOHAMA MICE Challenge  
事業報告書

令和8年2月

# 1. 事業概要

本章では、本事業の背景および目的、YOKOHAMA MICE Challenge(以下、YMC)の位置づけについて整理し、本事業が目指す方向性を示す。

## (1)事業の背景

横浜市では、『横浜市中期計画2022-2025』において、「子育てしたいまち 次世代を共に育むまち ヨコハマ」を基本戦略に掲げ、次世代育成に資する取組を推進している。将来を担う若い世代が、地域や産業と関わりながら成長できる機会を創出することは、持続可能な都市づくりの観点からも重要な課題である。

一方、MICE産業においては、近年、若手人材の業界外流出や担い手不足が指摘されており、今後の産業基盤を支える人材の育成・確保が喫緊の課題となっている。特に、MICEの現場に触れる機会が限られている大学生や若手層に対し、業界理解を促し、将来のキャリアの選択肢として認識してもらうための取組が求められている。

こうした背景を踏まえ、次世代育成の推進とMICE産業の活性化を両立させる取組として、大学生を対象に、実際の国際会議等を通じてMICEを「体験」するプログラムを実施することとした。本事業は、学生がMICEを知識として学ぶだけでなく、実務の現場に関わることで理解を深め、将来の進路や関心につなげることを目的としている。

## (2)事業の狙い

本事業は、大学生がMICEを「知る」だけでなく、実際の国際会議等を通じて実務として体感することで、MICEへの理解を深め、将来の担い手としての関心や意識を醸成することを主な狙いとして実施した。

### 【本事業で重視した視点】

- 学生自身の関心や視点を起点とした企画立案を重視し、主体的に考え、行動する機会を提供すること
- 主催者や関係者との意見交換、実証の機会を通じて、企画を具体化・実装していく実務プロセスを経験させること
- 企画検討から実証・本番までの一連の流れを通じて、MICE事業の構造や現場を知り、興味を持たせるとともに、求められる視点を学ぶこと

あわせて、こうした取組を通じて、次世代人材の育成を図るとともに、MICE産業の裾野拡大や将来的な人材確保につながる契機を創出することを、本事業の狙いとした。

## 2. 実施概要

本章では、本事業の基本方針、参加学生の構成、実証の場とした国際会議の概要および年間スケジュールについて整理する。

### (1)基本方針

本事業は、実際の国際会議等を実証の場とし、実務に近い環境で大学生がMICEを体感できる機会を提供することを前提として実施した。

- 学生が主体的に企画を検討・実施することを重視すること  
学生自身の関心や視点を起点に、企画立案から実証までを担う構成とした。
- 研修、企画検討、主催者面談、実証を段階的に組み合わせた構成とすること  
各段階での学びやフィードバックを通じて、企画を具体化・高度化していくプロセスを組み込んだ。
- 事務局による伴走支援を行い、学生の主体性を尊重しつつ必要な助言を行うこと  
学生の判断や工夫を尊重しながら、実務的観点からの助言や調整支援を行った。

### (2)参加学生

本事業には、市内3大学から大学2・3年生の計13名が参加した。

プログラム開始時点における参加学生の所属大学・学部・学年・人数は、次の表のとおりである。

なお、本事業は当初13名で開始し、最終的には12名が全てのプログラムを実施・完了した。

大学名	学部	学年	人数
神奈川大学	国際日本学部	3年	6名
國學院大學	観光まちづくり学部	3年	3名
	観光まちづくり学部	2年	2名
横浜市立大学	国際教養学部	3年	2名
		合計	13名

(3)実証の場とした国際会議

令和7年11月から12月に横浜市内で開催される国際会議の中から、中・大規模の国際会議、計3件を実証の対象として選定した。

学生がさまざまな分野の国際会議から学びが得られるよう、分野や参加者属性の異なる3会議を対象とした。

区分	PICES	ASCC	JSES
会議体名 (シリーズ名)	北太平洋海洋科学機構 年次総会	アジア・スマートシティ 会議	日本内視鏡外科学会総会
当該年度の 会議名 (開催回)	北太平洋海洋科学機関 2025年次会合	アジア・スマートシティ 会議2025	第38回日本内視鏡外科 学会総会
略称	PICES	ASCC	JSES
主催	PICES	横浜市	日本内視鏡外科学会
会期	令和7年11月8日(土)- 14日(金) ※11月10日(月)ウェル カムレセプション	令和7年11月25日(火)、 26日(水)	令和7年12月11日(木)- 13日(土)
会場	ワークピア横浜 大さん橋ホール(ウェルカ ムレセプション)	パシフィコ横浜 ノース	パシフィコ横浜 展示ホール
規模	650名 (本大会実績)	2,000名以上 (本大会実績)	7,000名以上 (過去大会実績)
主な参加 者	海洋科学・環境科学・気候 変動分野の研究者各国政 府関係者、政策担当者 NGO関係者、地域コミュ ニティ代表	海外都市・政府機関の首 長、実務者国際機関(世 界銀行、ADB 等)民間企 業、学術機関、学生・ユース	外科系医師(内視鏡外科) 医療機器メーカー研究者、 医療従事者
本事業で の位置づ け	多国籍・学術系国際会議 における交流・レセプショ ンを通じた実証	都市政策・官民連携を テーマとした国際会議で の実証	国内大規模学会における 来場者対応・運営環境で の実証

#### (4)年間スケジュール

本事業は、学生募集から研修、企画検討、国際会議での実証、振り返りまでを一連の流れとして設計し、段階的に学びと実践を深める年間スケジュールとした。

事業の初期段階では、公募を通じて参加学生を募集、MICEの基礎的な仕組みや業界構造、本事業の目的について理解を深める機会を設けた。

その後、実証対象となる国際会議の特性や開催環境を踏まえながら、学生自身の関心や視点を起点とした企画検討を行うフェーズを設定した。企画検討にあたっては、主催者や事務局との意見交換を通じて、企画内容を具体化していくプロセスを重視した。

実証フェーズでは、実際の国際会議を舞台として、企画の準備・運営・対応を行い、実務に近い環境での経験を積むことを位置づけた。

最終段階では、クロージングセッションを通じて一連の取組を振り返り、学びや成果を整理・共有することで、理解の定着と次の視点につなげる構成とした。

時期	取組の位置づけ	位置づけ・主な内容
4-5月	公募	市内大学の学生を対象に公募を行い、本事業の趣旨や取組内容を共有したうえで参加者を募集
6-7月	導入・基礎理解	MICEの基礎的な仕組みや業界構造を学ぶとともに、本事業の目的や全体像を共有し、参加意識を高める段階
7-11月	企画検討	実証対象となる国際会議の特性や開催環境を理解したうえで、学生自身の関心や視点を起点とした企画立案を行う段階
11-12月	実証	実際の国際会議を舞台に、企画の準備・運営・対応を行い、実務に近い環境での経験を積む段階
12月	振り返り・共有	一連の取組を振り返り、学びや成果を言語化・共有することで、理解の定着と次への視座につなげる段階

### 3. 実施記録

---

本章では、参加学生の募集から研修、国際会議における実証、クロージングセッションに至るまでの取組について、時系列で記録する。

#### (1)概要

- 本事業では、年度を通じて研修、企画検討、国際会議での実証、振り返りを段階的に配置し、年間を通じた取組として設計した。学生が企画の検討から実施、その後の振り返りまでを一連のプロセスとして経験できる構成とした。
- 事業の前半では、MICEに関する基礎的な理解を深める研修や企画検討を行い、主催者との面談を通じて、企画内容を実務の視点から具体化していった。後半では、実際の国際会議等を舞台に、学生が主体となってプログラムの準備・運営に携わり、実務に近い環境での実証を行った。
- 本章では、上記の全体構成を踏まえ、参加学生の募集・受入れから、研修、主催者面談、各国際会議における実証の取組について、実施の経過と内容を記録として整理する。
- 本事業では、各段階において事務局がオンラインMTGや個別連絡等を通じ、学生の進捗や課題に応じた伴走支援を継続的に実施した。
- なお、次ページでは、これらの取組を年間スケジュールとして整理し、各プログラムにおける実施内容および伴走支援の位置づけを俯瞰的に示す。

#### (2)参加者募集・受入れ

本事業では、市内大学に在籍する学生を対象に参加者の募集を行った。

- 募集にあたっては、本事業の趣旨や年間を通じた取組内容、国際会議等を実証の場とする点等を大学を通じて周知し、学生が事業全体の流れを理解したうえで参加を判断できるようにした。
- 学生の受入れは大学単位で受け入れることを基本とし、各大学から原則として6名を上限とした。本事業が国際会議等における企画プログラムの実証を行う取組であることを踏まえ、大学ごとに一定人数の体制を確保し、企画準備から当日の運営までを担える体制づくりを重視した。
- なお、参加に際しては、MICE分野への関心や事業内容、年間スケジュール等を公募時に明示し、学生自身が内容を理解したうえで応募・参加を判断する形とした。選考は行わず、事業の趣旨や進め方を共有したうえで、学生が主体的に関わることを前提として受入れを行った。

プログラム	実施日	開催形態・会場	座学	視察 (体験)	ワーク	実証・ 発表	伴走支援
第1回 集合型研修(オープニングセッション)	6月23日・26日	横浜市開港記念会館	○	○	○		
第2回 集合型研修	8月1日	横浜三溪園	○	○	○		
大学別研修(神奈川大学フォローアップ)	8月19日	オンラインセミナー	○				○
第3回 集合型研修	8月22日	パシフィコ横浜、BUKATSUDO	○	○	○		
大学別 企画・準備	8月中旬・9月上旬	オンラインセミナー					○
第4回 集合型研修	9月10日	Green Park FLOOP	○	○	○		
大学別 企画・準備	9月中旬・下旬	オンライン・メール					○
主催者プレゼン	10月下旬・11月中旬	主催者プレゼン				○	
大学別 企画・準備	10月下旬・11月上旬	オンライン					○
現地実証①(PICES)	11月10日	ワークヒア、大さん橋ホール				○	
大学別 企画・準備	11月上旬・下旬	オンライン					○
現地実証②(ASCC)	11月25日	パシフィコ横浜ノース				○	
大学別 企画・準備	11月下旬・12月上旬	オンライン					○
現地実証③(JSES)	12月12日	対面@パシフィコ横浜				○	
大学別 発表準備	12月上旬・中旬	オンライン					○
第5回 集合型研修(クロージングセッション)	12月22日	ラ・バンク・ド・ロア		○		○	

### 3. 実施記録

#### (3) 研修の実施

名称	オープニングセッション(第1回 集合型研修)
日時	令和7年6月23日(月) 16:00-19:00 令和7年6月26日(木) 13:30-16:30
開催形態	対面開催
会場	横浜市開港記念会館
参加者	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 國學院大學、横浜市立大学(学生)</li><li>・ 神奈川大学(学生、社会連携担当)</li><li>・ 横浜市にぎわいスポーツ文化局観光MICE振興部</li></ul>
ねらい	<ul style="list-style-type: none"><li>・ MICEの基本的な役割や意義について理解を深める</li><li>・ 本事業の目的や全体像を共有し、主体的に取り組むための基盤を形成する</li></ul>
研修の様子	<p><b>【主催挨拶・事業紹介】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 開会にあたり、横浜市 にぎわいスポーツ文化局 観光MICE振興部 観光MICE振興課 担当課長 坂田氏より主催者挨拶が行われた。一般観光誘客とMICE誘致の違いに触れ、MICEは戦略的に推進できる分野であること、本プログラムを通じて最後まで意欲的に取り組んでほしいとの期待が述べられた。</li><li>・ 続いて、同課 担当係長 小川氏より、YMCの実施背景および全体像について説明が行われた。横浜市が大規模MICE施設や良好なアクセス、宿泊・観光資源を有し、高いMICE競争力を備えていることが紹介され、あわせて、学生の視点から横浜市のMICE課題解決に挑むYMCの趣旨や令和6年度 of 取組内容について説明がなされた。</li></ul> <p><b>【座学】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 学生のMICEに関する理解度を揃えることを目的に、日本コンベンションサービス株式会社 伊藤氏より、講義「MICEの基礎知識」とを実施した。M・I・C・Eそれぞれの概要や開催効果について、事例や動画を交えて紹介し、今後の実証プログラム企画に向けて、参加者の行動パターンや自由時間帯についても説明を行った。</li><li>・ 学生は講義内容を熱心に聴講し、MICEへの理解を深めようとする姿勢が見られた。</li></ul> <p><b>【グループワーク】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 海外からのMICE参加者に伝えたい横浜の「リアルな魅力」をテーマに、グループごとに意見交換および企画検討を行った。</li><li>・ 学生は海外参加者の視点から体験価値を検討し、海・都市・歴史に着目した街歩きや早朝の神社巡りなど、時間帯や行動導線を意識した企画案を発表した。</li><li>・ 講評では、横浜でしか体験できない特別感のある体験が参加者の行動を促し、「この都市だからこそ体験したい」と感じられる内容が重要であるとの指摘があった。</li><li>・ 本ワークを通じて学生は、国際会議参加者の行動や心理を踏まえた体験価値設計の重要性を理解した。</li></ul>

## 研修の様子

### 【その他】

- 事務局より、実証先となる国際会議の概要とプログラム企画の進め方について説明を行い、昨年度参加学生からの振り返りおよび今年度参加学生へのメッセージ動画を紹介した。
- 参加学生は、先輩学生の取組や言葉に触れることで、今後の活動や実証に向けたイメージを具体的に持つ様子が見られた。
- MICE誘致に関する全国規模の学生向けピッチコンテストJAPAN MICE Challengeについて紹介を行った。本年度においては、横浜にて予選が開催されること、学生にとっての学びや挑戦の機会としての位置づけを説明した。
- オープニングセッションの様子は、専門メディア「見本市展示会通信」に掲載され、本事業が横浜市内大学生を対象としたMICE体験プログラムとして紹介された。記事では、参加学生が横浜の魅力を再発見し、国際会議での価値提案に挑戦する取組が取り上げられ、媒体を通じて外部発信がなされた。



出典:『見本市展示会通信』  
2025年7月15日号掲載記事より抜粋

研修	第2回研修
日時	令和7年8月1日(金) 07:30-12:00
開催形態	対面開催
会場	横浜三溪園
参加者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 神奈川大学、國學院大學、横浜市立大学(学生)</li> <li>・ 横浜市にぎわいスポーツ文化局観光MICE振興部</li> </ul>
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国際会議におけるプログラム企画の視点を学ぶ</li> <li>・ 実務を想定した検討を通じて、地域資源を活かしたMICEの仕事を具体的にイメージする力を養う</li> </ul>
研修の様子	<p>【三溪園視察】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本研修では、三溪園において視察を実施した。当日は観蓮会の時期に合わせ、ボランティアによる蓮を使ったアクティビティを体験し、庭園資源を活かした来園者向けプログラムの一例に触れた。</li> <li>・ 続いて、横浜市にぎわいスポーツ文化局観光MICE振興部観光MICE振興課担当係長石井氏による案内のもと、園内の歴史や文化財保存における課題、これまでのMICE利用実績について説明を受けた。かやぶき屋根の建物や塔など園内の主要な歴史的建造物に加え、MICEでも活用されている横浜市指定有形文化財の鶴翔閣についても視察を行った。</li> <li>・ また、モーニングアクティビティの理解を深める一環として、参加者全員で朝食を共にした。三溪園で収穫された梅が食材として提供され、食材の背景にあるストーリーや、地域資源を体験価値として伝える手法を学ぶ機会となった。</li> </ul> <p>【ワーク】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 原三溪記念館会議室にて、三溪園視察の振り返りおよびワークを実施した。個人ワークでは、「海外のMICE参加者に向けて、三溪園を歩きながらその魅力を際立たせる企画」をテーマに企画検討を行った。</li> <li>・ 学生は、視察を通じて得た気づきをもとに、園内の歴史的建造物や景観を活かした体験のあり方についてアイデアをまとめた。</li> <li>・ 墨絵や生け花といった日本文化体験、建造物を活用したプロジェクションマッピングなど、三溪園ならではの空間特性を活かした多様な企画案を提示した。</li> <li>・ 講評では、三溪園の魅力は単体のコンテンツだけでなく、歴史的空間の中を歩きながら体験するプロセスにある点が共有された。あわせて、海外のMICE参加者に向けては、文化的背景や物語性を感じられる体験の設計が、参加者の印象に残る企画につながるなどのコメントがあった。</li> <li>・ ワーク後半では、国際会議での企画・運営を担当するメイン担当と、他大学の取組を支援するサポート担当の発表および役割分担について共有を行った。</li> <li>・ あわせて、各国際会議において活用可能な時間帯や会場、企画の組み立て方について、事務局から具体的な事例を用いた説明を行った。</li> <li>・ 大学別のワークでは、具体的なプログラム企画に向けて、各自が担当する国際会議の情報をもとにアイデア出しを行った。次回研修までに提出する実証プログラム案の検討に向け、企画の方向性や検討の視点を共有する時間とした。</li> </ul>

研修	第3回研修
日時	令和7年8月22日(金) 10:00-14:00
開催形態	対面開催
会場	パシフィコ横浜 展示ホール、横浜市内貸会議室(BUKATSUDO)
参加者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 神奈川大学、國學院大學、横浜市立大学(学生)</li> <li>・ 横浜市にぎわいスポーツ文化局観光MICE振興部</li> </ul>
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ MICEが地域にもたらす効果と意義を理解する</li> <li>・ 人を引きつける展示や仕掛けを意識した視点を身につける</li> </ul>
研修の様子	<p>【視察】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ TICAD9の開催に合わせて実施された TICAD Business Expo &amp; Conference を視察した。国際会議の開催地における雰囲気を感じるとともに、国際会議に合わせて展示会や商談の場が創出されている様子を見学し、MICEが都市のビジネス活性化につながっていることへの理解を深めた。</li> <li>・ 展示会場では、出展企業による商談や交流の様子を見学したほか、出展者へのインタビューを実施した。学生は、国際会議を契機としたビジネスマッチングや情報発信の場としての展示会の役割や、MICEが企業活動に与える具体的な効果について理解を深めた。</li> </ul> <p>【座学】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ TICADを横浜で開催する意義や狙いについて、横浜市 国際局 グローバルネットワーク推進部 グローバルネットワーク推進課 担当係長 津留氏より解説を受けた。TICAD誘致に向けて横浜市としてこれまで取り組んできた内容や、都市として国際会議を受け入れる際の考え方について説明がなされた。</li> </ul> <p>【ワーク】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個人ワークでは、展示会視察での気づきや、出展者インタビューの結果をまとめ、全体で共有した。TICAD Business Expo &amp; Conferenceの視察および出展企業へのインタビューを通じて、学生は国際ビジネスの現場を初めて間近で体感し、国際会議が生み出す活気や熱量を実感したとの感想が上がった。</li> <li>・ インタビューでは、出展の目的が、企業やブランドを知ってもらうこと、新しい商品・サービスを広めること、新たなビジネスパートナーを探すことなど多岐にわたることを知り、展示会がビジネス創出の重要な場となることへの理解を深めた。</li> <li>・ 事前に提出されたプログラム案について、事務局からフィードバックを行い、その内容を踏まえて検討を進める構成とした。</li> <li>・ 続く大学別ワークでは、事前に提出した企画案をもとに、想定する対象者、実施場所、会議のテーマ、参加者ニーズなどを改めて確認しながら、実証プログラムの企画内容の絞り込みを行った。</li> <li>・ 講評では、実証プログラムの企画にあたっては内容そのものに加え、参加者に足を運んでもらうための集客の視点を持つことが重要であるとの指摘があった。あわせて、なぜ横浜で開催される国際会議でそのプログラムを実施するのかという点を明確にし、参加者の動機づけを意識した企画の設計が求められることも解説された。</li> </ul>

研修	第4回研修
日時	令和7年9月10日(月) 10:30-16:00(大さん橋ホール視察を含む)
開催形態	対面開催
会場	Green Park FLOOP (富士フィルムビジネスイノベーション株式会社 横浜みなとみらい事業所内体験型施設)
参加者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 神奈川大学、國學院大學、横浜市立大学(学生)</li> <li>・ 横浜市にぎわいスポーツ文化局観光MICE振興部</li> </ul>
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ MICEにおけるサステナビリティの考え方や最新動向を理解する</li> <li>・ プログラムにおいて、考え方や価値をどのように伝え、表現するかを学ぶ</li> </ul>
研修の様子	<p>【座学】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 座学では、なぜサステナビリティが求められているのかという背景から、MICE分野においてサステナビリティが重要視される理由について解説を行った。</li> <li>・ 国際会議の開催地選定においては、主催者・参加者・企業といった多様なステークホルダーの視点から、環境配慮や社会的配慮に関する取組が評価項目として重視される傾向にあることを、具体的な事例を交えて紹介した。あわせて、MICE施設や国際会議開催時における廃棄物削減、DEI推進、文化体験の活用、認証制度を活用した運営、地域事業者によるサステナブルな商品・サービスの取組など、MICE×サステナビリティの多様な実践例を共有した。</li> </ul> <p>【視察】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体験型施設 Green Park FLOOP を視察した。同事業所は、みなとみらい地区におけるR&amp;D集積の先駆けとなる都市型研究開発拠点であり、FLOOPは環境や複合技術を分かりやすく学びながら、サステナブルな地球の未来を探求する場として位置づけられている。</li> <li>・ 視察に先立ち、FLOOP担当者より、みなとみらい地区が研究開発拠点として形成されてきた背景や、企業がこのエリアに集積する意義について説明が行われた。あわせて、研究開発拠点に併設された体験型施設として、企業の取組や技術を来訪者に分かりやすく伝えることの重要性や、視察・研修の場としての活用可能性についても言及があった。</li> <li>・ 視察を通じて、学生からは「企業の取組や技術を、来場者の立場に立ってどのように伝えているのかが印象に残った」「体験と説明が一体となっている点分かりやすい」といった声が聞かれた。</li> <li>・ 単なる施設見学にとどまらず、展示や空間設計、スタッフの説明方法などを、来場者視点・運営者視点の双方から捉えようとする姿勢が見られ、後の企画検討に向けた具体的な気づきを得る機会となった。</li> <li>・ 昼食は、サステナビリティの取組の理解を深めるねらいで併設のFLOOP CAFÉを活用した。</li> <li>・ アップサイクル食材を活用したランチを囲みながら、食材の背景にある仕組みやアイデアについて説明を受け、サステナビリティの考え方を日常的な体験として理解を深める機会とした。</li> </ul> <p>【ワーク】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個人ワークでは、講義および視察を通じて得た気づきを全体で共有した。</li> <li>・ 大学別ワークでは、主催者への提案を見据え、実証プログラムの企画に向けて内容の具体化を進めた。</li> <li>・ 展示や体験を通じて来場者にメッセージを伝える工夫や、参加者の主体的な関与を促す仕掛けを、企画にどのように応用できるかという視点で検討を行った。</li> </ul>

研修	クロージングセッション
日時	令和7年12月22日(月) 13:30-16:30
開催形態	対面開催
会場	ラ・バンク・ド・ロア(横浜市指定有形文化財)
参加者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 神奈川県(学生、社会連携担当)、國學院大學(学生、教員)、横浜市立大学(学生)</li> <li>・ 横浜市にぎわいスポーツ文化局観光MICE振興部</li> <li>・ 横浜市国際局グローバルネットワーク推進課</li> <li>・ 横浜市政策経営局経営戦略課</li> <li>・ 横浜市観光協会</li> <li>・ パシフィコ横浜</li> </ul>
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修および実証を振り返り、学びや成果を言語化・共有する</li> </ul>
研修の様子	<p>【イントロダクション】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 開会にあたり、横浜市 にぎわいスポーツ文化局 観光MICE振興部 観光MICE振興課 担当課長 坂田氏よりコメントが述べられた。</li> <li>・ 本事業が当初の想定を上回る成果につながったとの受け止めが示されるとともに、実証の現場における主催者や参加者の様子からも、取組の手応えを感じている旨が語られた。</li> </ul> <p>【振り返り】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事務局からは、YMCの全体構成および取組の振り返りを行った。</li> <li>・ 本事業では、横浜の魅力やMICEの意義・仕組みへの理解を土台に、「座学」「体験」「ワーク」を組み合わせた研修を通じて、学生が自ら考え、企画を形にしていくプロセスを重視してきたことを共有した。</li> </ul> <p>【学生による成果発表】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大学別に実施した学生による成果発表では、本事業を通じて得た学びや、実証プログラムの企画・実施を通じて身につけた視点について発表が行われた。発表では、これまで十分に知らなかった横浜の歴史への理解を深めるとともに、MICEの視点から開催地としての魅力や可能性を改めて捉え直した点が、多くの学生から共通して挙げられた。</li> <li>・ あわせて、MICE参加者の行動やニーズを意識した企画の設計の重要性や、開催地としての横浜の特性を踏まえて体験価値を組み立てる視点についても共有され、MICEに対する理解や関心が高まっている様子がうかがえた。さらに、企画検討から実証までの一連のプロセスを経験したことで、アイデアを具体的なプログラムとして形にする難しさと、その過程で得られた手応えや気づきについても触れられた。</li> </ul>

## 研修の様子

### 【主催者コメント】

- 廃版海図を用いたコングレスバッグの配布や、レセプションにおける縁日プログラムが会場を大いに盛り上げ、海外参加者からも好評であったことが共有された。あわせて、学生が英語でイベント紹介を行い、積極的に交流していた点が高く評価され、今回の経験を今後の活動に活かしてほしいとの期待が述べられた。(PICES/水産庁 田中氏)
- 学生が横浜の魅力を的確に伝えながら、参加者にとって学びのある体験を提供していた点への謝意が示された。特に、参加者と積極的に交流し、笑顔で対応する姿勢が印象的であったとのコメントが寄せられた。あわせて、本事業での経験を通じて、今後、国際会議の誘致・開催や横浜市の取組に関心を持ち、将来の担い手として関わっていくことへの期待が示された。(ASCC/横浜市 国際局 グローバルネットワーク推進部 グローバルネットワーク推進課 太田氏)
- 学生ならではの柔軟で新鮮な発想による企画が高く評価されるとともに、当日の運営が円滑に行われ、参加者に対して丁寧かつ明るく対応していた点が印象的であったとのコメントがあった。また、参加者が横浜の歴史や街の背景に触れ、理解を深めるきっかけとなる工夫が随所に見られたことが共有され、成功した点だけでなく難しさを感じた経験も含め、今後の活動に活かしてほしいとのメッセージが送られた。(JSES/運営事務局 城氏、高山氏)

### 【クロージング】

- 同部 担当部長の正木氏より締めめの挨拶が行われた。
- 正木氏からは、YMCを最後までやり切ったことに自信を持ってほしいこと、学生が期待をはるかに超える形で横浜の魅力を伝えてくれたことへの評価が示された。あわせて、今回の経験を糧に、今後もさまざまな場面で挑戦を続けてほしいとのエールが送られた。
- あわせて、正木氏より参加学生一人ひとりに修了証の授与が行われ、本事業の締めくりとなった。

### 【視察・交流】

- 研修会場内では、国際会議での実証時に制作した看板や案内展示、配布物等を展示し、学生がクロージングセッション参加者に対して、実証準備の過程や当日の運営状況について説明する機会を設けた。これにより、企画立案から実証に至るまでの取組内容を具体的に共有するとともに、学生自身が活動を振り返る場ともなった。
- 会場であるラ・バンク・ド・ロアの館内視察を実施し、結婚式場として活用されてきた施設が、どのようにMICEビジネスへ展開されているかについて説明を受けた。学生は、会場の空間構成や演出、参加者動線等を実際に体験しながら、MICE参加者の視点で施設を捉える機会となった。
- ラ・バンク・ド・ロアのパティシエによる菓子や飲み物を用いた交流の時間を設け、参加者同士がリラックスした雰囲気の中で意見交換を行った。学生にとっては、プログラム提供側としての立場に加え、MICE参加者としての体験を通じて、交流設計やホスピタリティの重要性を実感する機会となった。



オープニングセッション:YMCの実施背景



オープニングセッション:講義「MICEの基礎知識」



オープニングセッション:グループワーク



第2回研修:横浜三溪園視察



第2回研修:観蓮会の体験



第2回研修:グループワーク



第3回研修:TICAD9 展示会視察



第3回研修:出展社インタビュー



第3回研修:ワークのプレゼンテーション



第4回研修:講義「MICEにおけるサステナビリティ」



第4回研修:FLOOP視察



第4回研修:グループワーク



クロージングセッション:イントロダクション



クロージングセッション:学生による成果報告



クロージングセッション:修了証授与



クロージングセッション:YMC学生集合写真

#### (4)主催者面談および実証準備

対象	PICES
日時	令和7年10月7日(火) 11:00-12:00
開催形態	対面開催
会場	東京都内会議室
参加者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 國學院大學(学生)</li> <li>・ 水産庁(主催者側)</li> <li>・ 横浜市にぎわいスポーツ文化局観光MICE振興部</li> </ul>
面談内容	<p>企画提案書をもとに、実証プログラム案「Nautical Reborn Bag」の配布や、「Sustainable Ocean Challenge」について、企画の背景や狙い、参加者に提供したい体験価値を説明した。</p> <p>面談では、実証に向けた事前調整を目的として、過去のPICES開催時の様子や、PICESにおける環境負荷低減の取組についても共有いただき、国際会議の企画・運営において主催者が重視している観点への理解を深める機会となった。</p> <p>【主催者からの主な質問・意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当日の運営体制や学生の役割分担について質問があり、参加者対応や環境負荷軽減につながる運営方法、過去開催会議での事例を踏まえた意見が示された。</li> <li>・ 特に、廃版海図を活用したコンプレスバッグについては、参加者の興味関心が高いと想定され、配布数量を増やす方向での検討が提案された。</li> </ul> <p>【主催者からの助言・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 参加者への認知向上を目的として、会期前の情報発信に向けた内容整理を行うことが望ましいとの助言があった。</li> <li>・ 当日の理解促進のため、掲示用チラシの作成や、会場内での簡潔なプレゼンテーションを実施することが提案された。</li> </ul>
面談を踏まえた対応・準備	<p>YMC事務局との面談等を複数回実施し、準備を進めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 主催者からの助言を受けた準備スケジュールの見直し</li> <li>・ 手配物および役割分担に関する情報の整理・精査</li> <li>・ 会期前の情報発信を見据えた、企画のポイントを簡潔にまとめた資料・文言(英語)の検討</li> <li>・ 当日掲示用チラシについて、視認性や分かりやすさを意識したデザイン・構成の検討</li> <li>・ 会場での説明やプレゼンテーションを想定した説明内容の整理および役割分担の確認</li> </ul>
実施のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 主催者面談を通じて、企画内容に対する具体的な助言や運営面での視点を得ることができた。</li> <li>・ 学生にとっては、主催者の立場や国際会議全体の視点を踏まえて企画を見直し、本番に向けて内容を具体化していく重要なプロセスとなり、実務に即した準備を進める経験を積む機会となった。</li> </ul>



実証に向けた主催者面談

対象	ASCC	
日時	令和7年10月3日(金) 15:00-16:00	
開催形態	対面開催	
会場	横浜市役所内会議室	
参加者	<ul style="list-style-type: none"> <li>横浜市立大学(学生)</li> <li>横浜市国際局(主催者側)</li> <li>横浜市にぎわいスポーツ文化局観光MICE振興部</li> </ul>	
面談内容	<p>企画提案書をもとに、実証プログラム案「Eco-Washi Postcard Journey in Yokohama」について、企画背景や着想、参加者に提供したい体験価値を説明した。面談では、事前のWEB告知や会場内アナウンスによる情報発信、当日のプレゼンテーション実施の可能性について主催者から提案があり、企画の伝え方や実施方法を中心に意見交換を行った。</p> <p>【主催者からの主な質問・意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>企画の意図に加え、横浜の歴史や魅力との関係性が伝わるような工夫があるとよい</li> <li>エコ和紙ハガキの制作工程を実演し、一部を参加者が体験するなど体験性を高める演出も検討してはどうか</li> <li>参加者が短時間で企画の意図や体験価値を理解できるよう、説明方法を工夫することが重要</li> </ul> <p>【学生の気づき】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>企画に込めた思いや背景を、参加者視点でどのように伝えるかを改めて考える必要性を認識した。</li> <li>主催者からの指摘を通じ、運営における情報発信の目的や配慮すべき点を理解する機会となった。</li> </ul>	<p>実証に向けた主催者面談</p>
面談を踏まえた対応・準備	<p>YMC事務局との面談等を複数回実施し、準備を進めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>エコ和紙ハガキの制作</li> <li>ASCCロゴ入り切手の制作(肖像権等の確認を含む)</li> <li>体験と連動した街歩きマップの作成</li> <li>体験を促すPOPや、体験の流れを示す案内資料の制作</li> <li>英語プレゼンテーションについて、内容・構成の見直し</li> </ul>	
実施のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>限られた人数で企画準備を進める必要があったことから、事務局との進捗確認を細かく行いながら、各自が状況に応じて判断し、優先順位を意識しながら準備を進めることが求められた。</li> <li>こうした環境の中で、企画内容を実務の視点で見直し、実証に向けて形にする過程は、学生自身が主体的に考え、行動する力を養う重要な学びの機会となった。</li> </ul>	

対象	JSES	
日時	令和7年11月14日(金) 10:00-11:00	
開催形態	対面開催	
会場	横浜市内貸会議室	
参加者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 神奈川大学(学生)</li> <li>・ 第38回内視鏡外科学会学術集会 運営事務局(主催者側)</li> <li>・ 横浜市にぎわいスポーツ文化局観光MICE振興部</li> </ul>	実証に向けた主催者面談
面談内容	<p>企画提案書をもとに、実証プログラム案「YOKOHAMA SWEETS HARMONY」について、企画の背景や着想、参加者に提供したい体験価値を説明した。面談では、学会参加者同士の交流に加え、参加者とYMC参加学生との関わりを生む視点が重要であるとの助言があり、企画の伝え方や会場での見せ方、導線設計について意見交換を行った。</p> <p>【主催者からの主な意見・助言】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 参加者同士だけでなく、参加者とYMC学生との交流が生まれる仕掛けがあると、体験として印象に残りやすい</li> <li>・ 手書きメッセージ等、学生ならではの関わり方を取り入れる工夫も有効</li> <li>・ 参加者を待たせない導線設計や運営体制が重要</li> <li>・ 事前・当日の情報発信(HP掲載内容、会場内掲示)を整理し、参加者が迷わず体験できるようにする必要がある</li> </ul> <p>【学生の気づき】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 参加者の立場に立ち、「どのような関わりがあると楽しいか」「どの情報があると参加しやすいか」を具体的に考える必要性を認識した</li> <li>・ 運営面を含めた全体設計の視点を持つことで、企画の完成度が高まることを実感した</li> </ul>	
面談を踏まえた対応・準備	<p>YMC事務局との面談等を複数回実施し、準備を進めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 横浜銘菓および販売店舗に関する情報整理・発信内容の検討、準備</li> <li>・ 学会や横浜の背景を伝える年表の作成</li> <li>・ 参加者が楽しみながら参加できるクイズの企画・作成</li> <li>・ ブース用看板の制作および前日からの掲示準備</li> <li>・ 体験導線を意識した会場レイアウト・運営方法の整理</li> <li>・ 横浜銘菓の配布準備</li> </ul>	
実施のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 主催者との面談を通じて、企画の中で詰め切れていない点が明らかとなり、実証に向けた対応や準備についてスケジュールを見直す必要が生じた。</li> <li>・ あわせて、参加者の視点に立った企画・運営のあり方を再検討し、体験の質や当日の導線、情報発信を一体として捉え直しながら準備を進めた。これらの検討プロセスは、学生にとって企画を実証につなげる実務的な学びの機会となった。</li> </ul>	

## (5)国際会議におけるプログラムの実証

実証先会議	PICES
日時	令和7年11月10日(月) 09:00-21:00
会場	ワークピア横浜、大さん橋ホール
参加者	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 國學院大學 (メイン担当、4名)</li><li>・ 神奈川大学、横浜市立大学(サポート担当、計4名)</li></ul>
プログラム	<ul style="list-style-type: none"><li>・ Nautical Reborn Bag</li><li>・ Sustainable Ocean Challenge (Fish Hunting、Ocean Waste Busters)</li></ul>
実証の様子	<p>YMC学生は、プログラムのテーマに合わせて、「YOKOHAMA」の法被を着用し実証にあたった。</p> <p><b>【Nautical Reborn Bag】</b> 廃版海図を活用したバッグの配布にあたっては、POPの作成や実物展示を行い、素材や背景が伝わるよう工夫した。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 参加者に対しては、日本地図を携帯端末で示しながら、どの海域の海図が使われているかを説明するなど、対話を通じて興味を引き出す取組が見られた。</li><li>・ 会場内でのバッグの使用も見られ、体験を通じた理解促進につながった。</li><li>・ 予定枚数約200枚を、計画通りに配布終了した。</li></ul> <p><b>【Sustainable Ocean Challenge】</b> 夕方の実施に先立ち、約3時間をかけて設営およびリハーサルを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 来場者の動線を意識した誘導サインの掲示に加え、BGMや装飾、横浜市の魅力を伝える映像の投影などにより、会場の雰囲気づくりを行った。</li><li>・ 開始時間前からブース周辺に人が集まり、懇親会場内に他のアトラクションがなかったこともあり、縁日企画は多くの参加者で賑わった。</li><li>・ 英語によるプレゼンテーションの時間帯には、一時的に体験提供を調整するなど、状況に応じた運営方法の見直しも行われた。</li><li>・ のべ200人超の方にSustainable Ocean Challengeを体験いただいた。</li><li>・ 景品はすべてサステナブルな商品とし、横浜のSDGsの取組や持続可能なまちづくりへの姿勢を発信する機会とした。具体的には、横浜市内事業者の商品やアップサイクル商品を採用し、環境配慮や地域循環の視点を取り入れた。</li></ul> <p><b>【学生の対応】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 各ブースでは、体験を通じて自然な会話が生まれ、参加者とYMC学生との交流が随所で見られた。</li><li>・ 予想を上回る来場者数となり、想定していた説明や情報発信を十分に行えない場面もあったが、在庫や混雑状況に応じて柔軟に対応する様子が見られた。</li></ul>
実証のまとめ	<ul style="list-style-type: none"><li>・ プログラムの実証を通じて多くの参加者との交流が生まれ、横浜市の魅力や企画の背景を伝える機会となった。</li><li>・ また、他大学の学生と連携しながら企画・準備から当日の運営までを進める中で、参加者の反応を直接受け止めながら対応するプロセスを経験し、学生が主体的に考え行動する力を養う重要な機会となった。</li></ul>



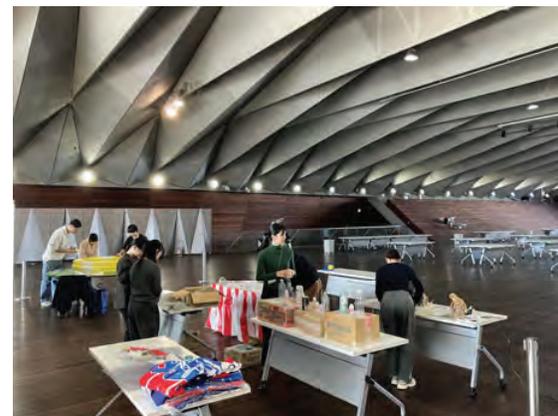
藤田仁司 水産庁長官によるブース視察



Nautical Reborn Bagの紹介の様子



Nautical Reborn Bag の説明の様子



レセプション会場における実証準備の様子



Sustainable Ocean Challenge実施の様子



実証プログラム紹介のプレゼンテーションの様子



Fish Hunting実施の様子



Ocean Waste Busters実施の様子

実証先会議	ASCC
日時	令和7年11月26日(水) 09:00-16:00
会場	パシフィコ横浜ノース
担当学生	<ul style="list-style-type: none"> <li>横浜市立大学(メイン担当、計2名)</li> <li>神奈川大学、國學院大學(サポート担当、計7名)</li> </ul>
プログラム	Eco-Washi Postcard Journey in Yokohama
実証の様子	<p>メイン担当の学生が作成した当日のタイムテーブルおよび役割分担メモをもとに共有を行い、各自の役割を確認したうえで準備を進めた。</p> <p>当初サポート担当になっていなかった学生が自主的に運営支援を申し出る場面も見られ、PICESでの実証経験を持つ学生がサポート担当として加わった。こうした行動から、過去の実証経験が次の活動へと波及し、学生の主体的な関与が広がっている様子がうかがえた。</p> <p>【前日準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>体験内容を分かりやすく伝えるため、海外参加者に人気のある漢字とイラストを用いた手書きPOPを作成した。前日準備の段階から学生同士の連携が見られ、企画に向けた一体感が醸成されている様子がうかがえた。</li> </ul> <p>【ブース】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「ハガキを書く」という体験自体が新鮮に受け止められ、体験中にはエコ和紙ハガキの素材や制作背景について質問が寄せられた。</li> <li>学生は、再生素材を活用した和紙である点や環境配慮の視点を企画に取り入れた意図について説明し、企画の趣旨や背景への理解を促していた。</li> <li>あわせて、書き上げたハガキを実際に投函することを目的として作成した街歩きを促すオリジナルマップを配布し、会場外の周遊を促した。</li> </ul> <p>さらに、横浜の風景にASCCロゴを入れたオリジナル切手の説明を行い、記念性や開催地とのつながりを感じられる工夫として参加者の関心を集めていた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>後半は、中学校・高校の探究学習の一環で来場した生徒の体験が中心となり、学生にも分かりやすい体験型ブースとして好意的に受け止められていた。</li> <li>予定の200枚の切手を配り終え、15:00過ぎにプログラムの提供を終了した。</li> </ul> <p>【運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>PICESの実証で好評だった「YOKOHAMA」の法被を着用して実証にあたった。</li> <li>英語によるプレゼンテーションは昼食中の参加者のテーブル付近で実施し、企画の背景や体験内容を紹介した。サポート担当の学生は、ハガキサンプルの提示、会場内を回りながら企画の告知を行い、来場者への認知向上を図り、YMCとしてチームで取り組む姿勢が伝わる運営となった。</li> </ul>
実証のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>実証では、学生主体の運営体制のもと、企画の背景や体験内容を英語で伝えながら、参加者との対話を重視した取組が行われた。</li> <li>エコ和紙ハガキを用いた体験を通じて、参加者の関心に応じた説明が行われ、体験をきっかけに理解を深めてもらうプロセスが見られた。実証を通じて学生は、多様な参加者層を想定した伝え方や運営方法を実践的に学ぶ機会となった。</li> </ul>



メイン担当学生によるブリーフィング



実証開始前のブース設営状況



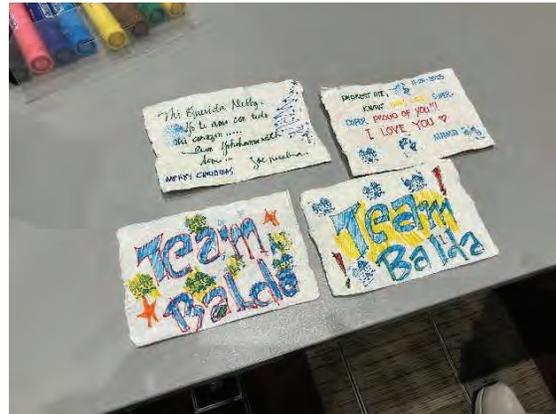
国際会議参加者への企画説明の様子



エコ和紙ハガキにメッセージを書く体験者



メッセージを記入したエコ和紙ハガキを持つ体験者



体験者がメッセージを記入したエコ和紙ハガキ



実証プログラムの紹介プレゼンテーション



学生によるプレゼンテーションを聴講する参加者

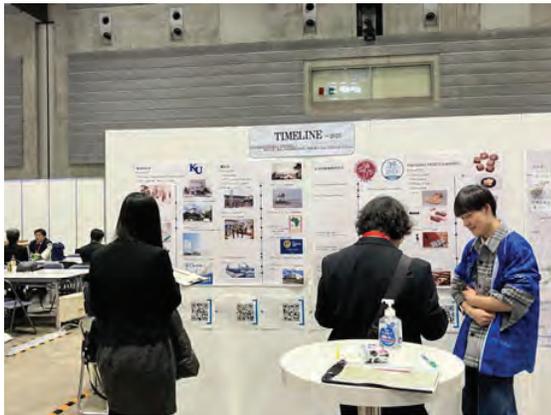
実証先会議	JSES
日時	令和7年12月12日(金) 09:00-16:00
会場	パシフィコ横浜展示ホール
担当学生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 神奈川大学 (メイン担当、6名)</li> <li>・ 國學院大學 (サポート担当、4名)</li> </ul>
プログラム	YOKOHAMA SWEETS HARMONY
実証の様子	<p>YMC学生であることが分かるよう横浜ベイスターズのユニフォームを着用したことで、設営準備の段階から学術集会参加者がブースに関心を示し、足を止める様子が見えかけた。</p> <p><b>【準備】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ブース設営や年表の最終調整などを行い、体験内容の確認を進めた。準備の過程では、事前に制作した一部の制作物において誤字脱字や事実確認が不十分な点が見つかり、内容の修正や確認を行う場面もあった。</li> <li>・ あわせて、クイズや解説内容について学生間で共有を行い、それぞれが担当内容を確認しながら準備を進めた。</li> </ul> <p><b>【ブース】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ブースでは、体験内容の紹介を交えた呼び込みを行い、体験の流れを説明しながら年表前へ参加者を誘導した。クイズの答え合わせや解説の場面では、学術集会参加者とYMC学生との間で自然な会話が生まれ、双方向のやり取りを通じて体験への理解や関心が深まった。</li> <li>・ 特に、JSES、横浜市、神奈川大学、横浜の銘菓に関する歴史をまとめた年表には多くの参加者が足を止め、「横浜について知ることができた」「記念になった」といった反応が聞かれた。</li> <li>・ さらに、体験後には紹介したお菓子や販売店舗について質問が寄せられるなど、企画内容への関心の高さや、企画意図が参加者に伝えられたことがうかがえた。</li> </ul> <p><b>【運営】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学術プログラムの進行の都合により、午後以降にブース来訪者が集中し、体験までお待ちいただく場面も生じたが、備品や配布物の在庫状況を踏まえ、配布するお菓子の種類を調整するなど、状況に応じた対応が行われた。その結果、予定していた配布物200セットを、すべて参加者に提供することができた。</li> <li>・ プログラム提供後には、JSES運営事務局による学術集会会場ツアーも実施され、学生が医学系学術集会の様子を実際に学び、運営の工夫や会場全体の動線設計について理解を深める機会となった。</li> </ul>
実証のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実証までの準備では、多人数での役割分担や運営調整に難しさも見られたが、学生が主体となって来場者対応を行い、横浜の歴史や魅力を伝える取組が実施された。</li> <li>・ 実証を通じて、学生は現場での状況に応じた対応や、参加者との対話を通じて企画内容を伝える経験を積む機会となった。</li> </ul>



主催者側から注意事項等の説明



学生によるブース設営準備の様子



YMC学生による年表の説明の様子



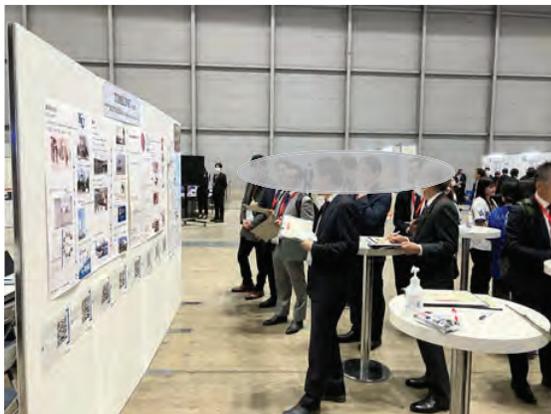
YMC学生による来場者対応の様子



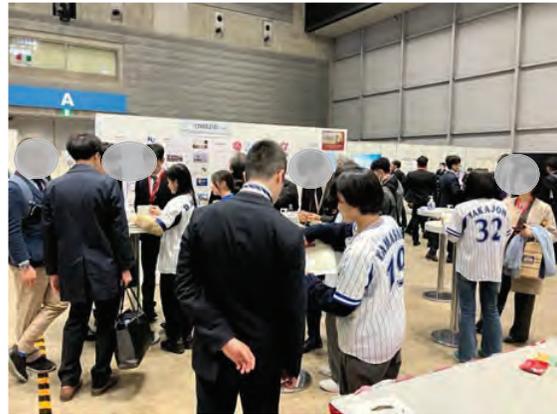
実証プログラムに参加する来場者の様子



実証プログラムに参加する会議参加者の様子



年表を参考にクイズへ挑戦する会議参加者



YMC学生によるクイズ解説の様子